

一般質問日程 6月12日(木)

令和7年6月定例会

発言 順序	議席 番号	発言者氏名	質 問 事 項
1	11	斎 藤 久 幸	1. 「中学生の提案事業費補助金事業」導入について (1) 「中学生の提案事業費補助金事業」導入について 愛知県豊明市は2025年度から、中学生からの要望や意見を市の事業として反映させるため、「生徒会提案事業費補助金事業」が開始されました。 この事業を始めるきっかけは、学校生活の改善や向上を目指した「市長と話そう会」で、生徒から教科書などの荷物が多く、学校に置いて帰るにも保管する場所が狭いため「新たに棚を作ってほしい」という意見を受け、そこで市は、生徒からの提案のあった事業や学校生活の課題解決のため、生徒会が企画した事業について補助することにしたそうです。 そこで、当市でもこのような事業を導入することにより、中学生が具体的な提案をまとめ、市に提案することにより、行政の仕組みを学ぶ良い機会になると同時に若者の政治離れを防ぐことにも繋がると思うが市の見解を伺います。 2. 鬼怒川温泉の廃ホテルについて (1) 鬼怒川温泉の廃ホテルについて 廃ホテルの問題については、令和元年6月定例会、令和3年6月定例会及び令和5年9月定例会の3回一般質問させていただきましたが、現在、この問題解決に向け、市としてどのような取組を行っているのかお伺いいたします。 3. 通学路の安全対策について (1) 通学路の安全対策について 警察庁が2019年から2023年に起きた交通事故を分析したところ、歩行中の小学生の死者・重傷者はこの5年間で2,011人に上がることがわかりました。 そのようなことから、市としては、学校での交通安全教室等の事故防止啓発指導は行っていると思われま

開始時刻

1人目：午前10時

3人目：午後1時

一般質問日程 6月12日(木)

令和7年6月定例会

発言 順序	議席 番号	発言者氏名	質 問 事 項
1	11	斎藤 久幸	すが、通学路の道幅が狭いことや通学路の脇に水路があり、一部の保護者からそのような通学路の安全対策をすべきではないかとのご意見を頂いております。そのような声を市としてどのように捉えているのかお伺いいたします。
2	8	村上 正明	1. 日光市における農業支援等の今後について (1) 農業従事者の高齢化や後継者不足について 日光市では、人口減少について、少子高齢化が急激に進行しており、「消滅可能性自治体」になりえる分析があり将来的な人口減少は深刻な課題であり、対策は急務であると考えます。また、日光市は、栃木県の四分の一の広大な市域であり、過疎化が進む地域では今後の課題は多くあると考えます。その一つが農業分野であります。水田耕作など農業従事者の後継者問題や高齢化が進む事は今後、離農が増えつづけ耕作放棄地が増加していくと考えます。 また、現状において大規模な農家であればIT化や大型機械の導入が出来ますが耕作面積が小さい農家は、新規の機械を導入する事もハードルが高くなっていると考えます。当市において水稻は、基幹作物であると思いますが、持続可能な農業を定着させ10年先の後継者づくりを検討する必要があると考えますが次の点を伺います。 ①農業の後継者不足解消に向けた今後の取組について (2) 農業用水の管理について 本年も水稻の作付けも終わりに近づき、用水路の清掃や用水確保に苦勞していると思われます。農業従事者の減少や高齢化は、用水の管理や補修は農業従事者に大きな負担増となっていると考えます。国の交付金において現在、中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金などが農村地域への支援があり、地域の活性化や環境整備に繋がると考えておりますが、大きな課題があると思われます。しかしながら近年、気候変動が多発する中、河川や農業用水の管理について

開始時刻

1人目：午前10時

3人目：午後1時

一般質問日程 6月12日(木)

令和7年6月定例会

発言 順序	議席 番号	発言者氏名	質 問 事 項
2	8	村 上 正 明	安定した水路の確保は重要な課題となっていると考えますが、自然災害ではなく、埼玉県では下水道の老朽化により、道路の陥没事故が起こり問題となっており、当市においては古くから農業用水の確保の為、隧道を利用した水路が散見されますが、近年の甚大な災害において隧道が崩落している地域があると思われ、事故を未然に防ぐ対策は早急に対策が必要と考えますが、以下の2点を伺います。 ①当市の水路や隧道の状況について ②中山間地等直接支払交付金や多面的機能支払交付金制度の活用状況について
3	5	齊 藤 正 三	1. 日光市立小中学校の教職員定数問題について (1) 合併から現在までの児童生徒数、学校数、教職員数などの推移について 全国的に教職員不足が深刻化しており、県内の小中学校教職員が多忙感を抱いている。教職員の働き方改革を推進する中で業務量がほぼ変わらず削減効果が表れていない。負担を減らす解消策として教職員定数の増が望まれている。 日光市で平成18年合併から令和7年度までの児童生徒数の推移、合わせて学校数・学級数、そして教職員数の推移を伺います。 (2) 教職員定数の充足率と教員一人当たりの児童生徒数について 日光市の教職員定数の平均充足率、また教職員一人当たりの平均児童生徒数を伺う。 (3) 日光市の小中学校の教職員定数の現状について 全国では教職員の団塊ジュニア世代が定年を迎える。また特別な教育的配慮が必要な子供への、きめ細かな対応など教職員数を増やすよう求められている。そして正規教職員が病気や育休時、臨採や講師などでカバーするが自治体の財源問題などにより雇用の確保ができず、常にぎりぎりの教職員数であるなど、全国

開始時刻

1人目：午前10時

3人目：午後1時

一般質問日程 6月12日(木)

令和7年6月定例会

発言 順序	議席 番号	発言者氏名	質 問 事 項
3	5	齊 藤 正 三	で深刻な教職員不足が続いている。 日光市の小中学校の教職員定数は、どのような現状にあるか伺う。 2. 野生鳥獣対策について (1) 日光市のシカ・サル被害防止計画の評価と課題について 日光市は県内の中でもシカ・サルの生息地であり、年間の捕獲頭数も県全体捕獲目標頭数の約半分を日光市で猟友会の皆さんの協力により捕獲しております。 日光市の捕獲頭数は、令和3年度には二ホンジカが7,972頭と特に多く捕獲され、サルは令和2年度が一番多く300頭となっております。しかしサル・シカが減ってきているようには、感じ取れない状況にあります。シカ・サルの最新の捕獲頭数を伺います。 これまでの「栃木県シカ・サル管理計画」から見た「日光市シカ・サル被害防止計画」の捕獲目標の達成状況と、結果の評価と課題について伺います。 (2) 国によるクマの法改正について 全国でクマによる人身被害が多発していることで国は、クマ対策として2024年4月16日に鳥獣保護管理法の省令を改正しクマをこれまでの「保護獣」から「指定管理獣」に指定しました。 また、市街地に出没したクマの銃による猟を、自治体で判断することが可能にする「改正鳥獣保護管理法」が2025年4月18日成立し、6カ月以内(秋までに)施行を目指すとしております。これらクマに関する2つの法令が改正されることとなり、人間に危害を及ぼす恐れがある動物「危険鳥獣」にクマが加わることですが、それぞれどのように変わるのか具体的内容について伺います。

開始時刻

1人目：午前10時

3人目：午後1時

一般質問日程 6月12日(木)

令和7年6月定例会

発言 順序	議席 番号	発言者氏名	質 問 事 項
4	9	高 見 尚 希	1. 職場体験（マイチャレンジ）について (1) 事務負担の軽減と生徒が希望する職場体験の実施について 市内中学校では、校内学年部の教員が事務を行い、職場体験（マイチャレンジ）が実施されています。日常の業務に加えての受入事業所の開拓や連絡、打合せ、広報活動等の事務は、教員の負担になり、時間外労働の一因になっているようです。また、教員が職場体験の事務に時間を割けないことから、生徒が希望する職場への体験があまりできていない実情があると聞きます。 学校と教育委員会には、キャリア教育の質の向上と教員の働き方改革の推進を行う必要があると考えますので、次の点について、伺います。 ①学校の事務負担感について ②生徒が希望する職種、職場の実施状況について ③教育委員会の関わりについて (2) 日光市の課題解決に向けた職場体験の事業化について 職場体験（マイチャレンジ）は、キャリア教育の一環で、教育課程に位置付けた教育活動としており、中学校で実施されています。また、高等学校でもそれぞれにキャリア教育が行われています。各学校でのキャリア教育は、『お金を稼ぐ』『働く』『仕事を知る体験する』ことであり、『日光でお金を稼ぐ』『日光で働く』『日光の仕事を知る体験する』ことを意識したキャリア教育ではありません。日光市の課題解決には、学生のうちに愛着をもち、『日光で働く』意識が芽生えるような施策が必要であると考えます。 市全域での職場体験を事業化することで、多種多様な職場がある事を知り、体験し、地域に触れ、新たな魅力を感じることで、愛着をもち、『日光で働く』意識が芽生える可能性があり、担い手不足や人口減少問題の課題解決の一助になると思いますので、次の点について、伺います。

開始時刻

1人目：午前10時

3人目：午後1時

一般質問日程 6月12日(木)

令和7年6月定例会

発言 順序	議席 番号	発言者氏名	質 問 事 項
4	9	高 見 尚 希	① 1次産業（農業や林業）、2次産業（建設業、職人や伝統工芸士）の担い手の将来展望について ② 『日光で働く』ことを働きかける施策について ③ 学生に向けた、愛着を育む施策について ④ 市全域での職場体験の事業化について 2. 診療所とオンライン診療について (1) オンライン診療の活用と体制構築について 奥日光、三依、湯西川、小来川、栗山の5ヶ所の診療所があり、令和9年4月からは、足尾の医療も診療所に託されてきます。各診療所の休診日は様々で、地域の実情に合わせた設定となっているようですが、地域の方々は、ご不安でご不満であると聞きます。各診療所をオンラインで繋ぐことで、休診日を減らし、山間部地域の方への医療提供を充実できる可能性があります。また、診療所でオンライン診療体制を構築することや市内にある医療機関でオンライン診療を行うようになることで、『移動の足』の確保が難しい方にとって有益であると考えます。さらには、医師不足の影響をととも受ける訪問診療についても、オンラインを活用することで保健師や看護師などが訪問し、医師の診療を受ける方法も考えられます。 市は、診療所の休診日の改善に取り組まれないのか、オンライン診療の活用と体制構築について、どのような考えであるのか、伺います。

開始時刻

1人目：午前10時

3人目：午後1時